

日本大学工学部

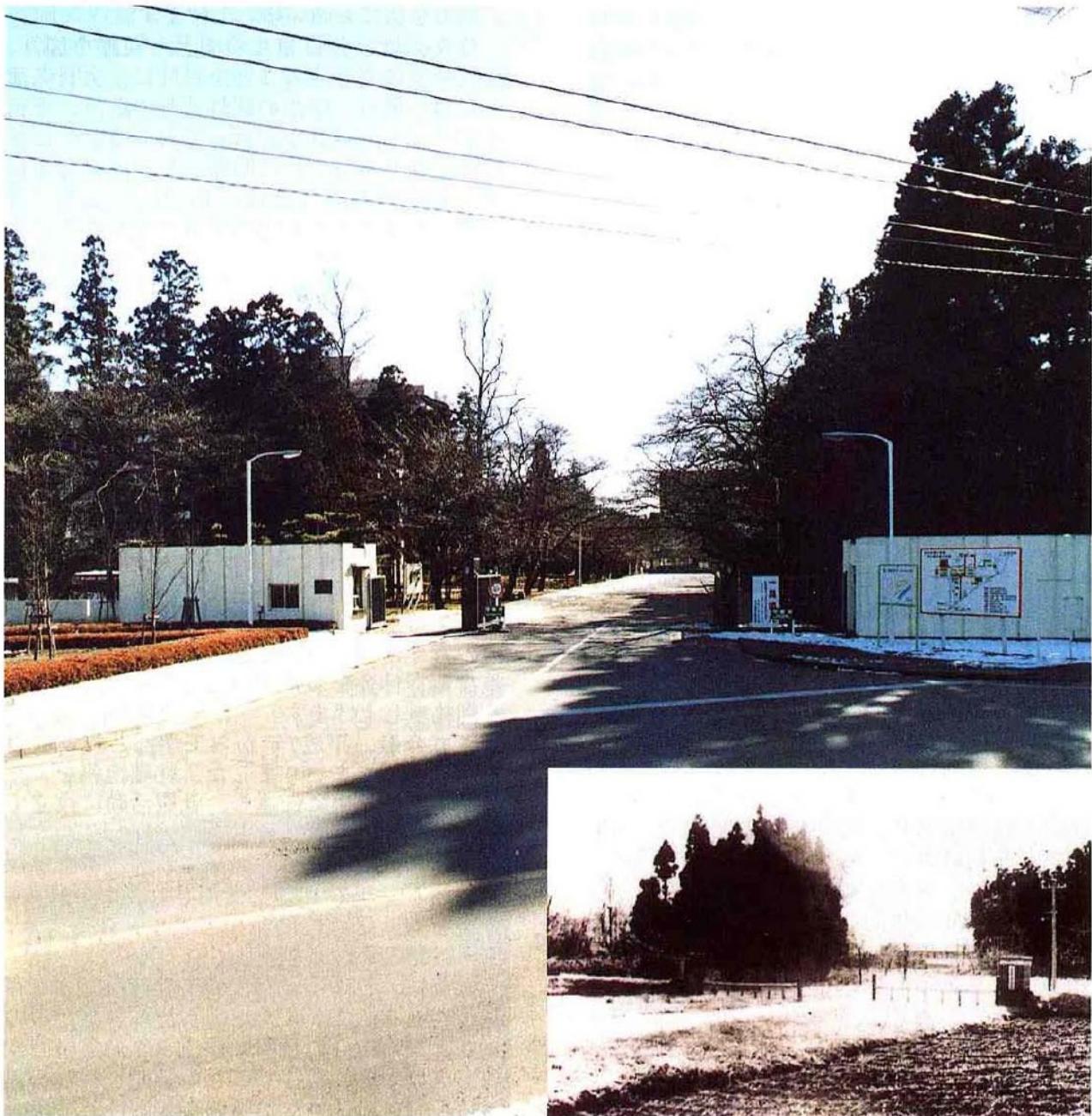
校友会報

第 60 号

平成 9 年 3 月 1 日

目 次

ごあいさつ(工学部長・校友会長)	2
平成 8 年度(第 39 回)通常総会報告	3~4
第 16 回母校を訪ねる会報告	5~8
支部総会・同窓会・クラス会	8~12
若葉マーク・がんばり記(新海知之)	13
校友レポート(盛武建二)	14~19
校友短信	20~21
校友会役員紹介	22
キャンパス・ミニメモ	23~24
通常総会通知・母校を訪ねる会	24



工学部正門の今昔（右下は、昭和 26 年当時）

ごあいさつ



日本大学工学部長

蓬田 和夫

長びく不況の中、校友の皆様には産業・技術界のいろいろな分野で活躍されておりることを心からお喜び申し上げます。

校友会が長年にわたって蓄積してきたその基礎となる校友情報を昨年学部へ譲渡していただきました。早速就職指導課のサーバーに移植し教職員学生の利用に供したところ、毎日大勢の利用者が訪れているということです。校友会の御好意に対し、厚く御礼申し上げます。

平成5年度のカリキュラム改正で、セメスター制の方向で一歩進めましたが、平成9年度からはこれをさらに進めて、実験・実習を除く全科目を半期完結型になるようにカリキュラムを改正する予定です。この趣旨に沿った授業ができるように、昨年学年暦を改め、従来9月末に行っていた前学期の試験を7月中に終るようになり、夏休みは8月から9月にかけてとなりました。

平成5年度に開設した情報工学科の第一回の卒業生をこの春送り出すことになりました。これに合わせて大学院工学研究科情報工学専攻修士課程をこの4月開設する予定です。また既設の5専攻についても定員増をはかります。平成9年度から大学入試センターの試験に参加することになり、去る1月18・19日に、工学部も試験場となりこの試験を実施しました。

さて、専門部工科が郡山に移設されてから今年で50年になります。工学部にとって大きな節目の年であり、10月18日の開設50周年記念式典を初めいろいろな行事や事業を予定しております。キャンパス再開発計画の第1歩としての、50周年記念館の建設もその一つです。その事業資金の一部にあてるべく先日関係各位に募金のお願いをしましたところ、校友の方々からも沢山の御寄付を頂きました。厚く御礼申し上げますとともに、今後とも御支援の程宜しくお願ひ致します。

校友の皆様の益々のご活躍、御発展を祈念し、ごあいさつといたします。



日本大学工学部校友会長

木村 圭二

平成8年度総会においてご推挙をいただき、日本大学工学部校友会長に就任いたしました。微力非才であります、この重任を全うすべく努力いたして参りますので、ご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

校友会は、会員相互の向上と親睦を図り、母校発展に寄与することを目的に、会員名簿と会報の発行、学生の課外活動の助成、下宿やアパートの紹介などを行っております。ご承知のとおり本会会員は昭和33年校友会発足以来、平成8年度には会員37,400名、準会員の学生諸君を加えると42,200余名と大きな会に発展することができました。また、本会は本部組織と全国6ブロックの支部とで運営しておりますが、それぞれの支部は活発な校友会活動を行って、その目的達成に努力されております。これは偏に先輩役員の方々や、関係各位のご支援ご協力の賜と感謝申し上げ、敬意を表します。

日本大学工学部は、平成9年には開設50周年を迎えます。学部では種々記念事業を計画されておりますが、その一環として50周年記念館を建設すべく作業が進められております。校友会も記念館が完成すれば、事務局を移転する予定となっております。校友各位多数の方々には、当記念館建設にあたって、貴重なる寄付金をお寄せいただきました。心より御礼申し上げます。

さて今般、平成7年から工学部と校友会とで話し合ってまいりました、就職情報をより早く正確に学生に伝達し、就職活動に役立ててもらう目的から、校友会が管理しております会員名簿データの一部を工学部就職指導課に譲渡し、現在有効に活用しております。今後とも、正確な情報の伝達ができるよう、協力していきたいと思っております。

最後に、将来にわたって工学部校友会を存続・発展させていくために、校友各位からの英知を集め、会の目的に添うべく役員一同全力をあげていく所存でございます。校友皆様方の特段のご協力をお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

平成8年度第39回通常総会報告

第39回校友会通常総会は、平成8年4月20日(土)午後1時より、日本大学郡山研修会館において開催された。

例年であれば郡山は桜の花も満開の時期であるが、今年は春が遅く花の到来はもう一步というところであった。

総会は橋本事務局長（建築10回卒）が司会され、佐藤副会長（土木3回卒）による開会の辞をもって始められた。

次いで、半沢会長よりご挨拶があり、任期満了にともなう謝辞と今後の校友会活動に対する期待と希望などが述べられた。

次に司会より議長選出が図られ、山田克己氏（土木5回卒）が選ばれ、本年は役員の改選期に当たるのでスムースな議事運営にご協力下さいとの議長挨拶をもって就任された。早速、議事録署名人ならびに書記の選出が行われ、署名には野尻大五郎氏（工化16回卒）曾部忠義氏（電気20回卒）また書記には、渡澤正典氏（建築14回卒）杉崎一馬氏（土木26回卒）の各氏がそれぞれ選出され議事に入った。

承認第1号・平成7年度会務について、村田事業部長（土木12回卒）より会員の状況、会務の状況ならびに財産の状況を含む詳しい報告があり、また承認第2号・7年度一般会計等の収支決算について、伊藤経理部長（電気16回卒）より報告、これに対する監査について、石井和樹監査（土木13回卒）より、会は正しく運営されているとの判定を受けて、審議に移ったが、異議なしの声と共に拍手をもって承

認された。

次いで議案第1号・平成8年度事業計画は半沢会長より要約次のような提案があった。準会員に対するサービスとして、図書の供与、下宿・アパートの紹介。好評な「母校を訪ねる会」の継続、学部就職活動に対する支援、このために校友情報を工学部に提供する件、また平成9年は工学部開設50周年に当たるので、学部が企画している記念事業に対する協力など多岐にわたった。これらについて活発な質疑討論が行われ、拍手をもって承認された。引続き議案第2号・平成8年度一般会計収支案、同特別会計収支案について伊藤経理部長より提案されたが、異議なしとの発言で拍手の中に承認された。次いで半沢会長より、昨年改正した会則の役職名を日本大学校友会本部の通達により、事務局長を幹事長に、理事を常任理事、評議員を幹事に改めるなどの提案があった。異議なしで承認された。議案第4号・役員の改選が図られた。種々意見があったが、前例に従って、執行部案の人事構成で役員選考委員会が結成され、別室で役員選考に入った。その結果後記(P.22参照)役員のとおり、選考委員長・田母神忠孝氏（土木6回卒）より報告があった。異議なしと拍手で承認された。以上で大役を果たした議長は退座し、佐藤副会長の閉会の辞をもって議事は終了した。席を改めて、恒例の懇親会に移り、出席者は和やかに懇談を交わした。



会長あいさつ：半沢前校友会長



審議風景…



懇親会：蓬田工学部長あいさつ



和やかに懇親



いざ讃えん、大学日本…

平成7年度一般会計収支決算書

歳入				単位：円
款項	種目	予算額	決算額	比較増減
会 費	1)終身会費	10,000,000	10,710,000	710,000
	2)入会金	11,000,000	13,105,000	2,105,000
	計	21,000,000	23,815,000	2,815,000
繰越金	3)前年度繰越金	6,157,992	6,157,992	0
	計	6,157,992	6,157,992	0
繰入金	4)運用財産より繰入金	0	0	0
	計	0	0	0
総収入	5)預金利子	700,000	622,778	△77,222
	6)負担金	0	0	0
	7)名簿代金	36,000	82,000	46,000
	8)雑収入	6,008	230,000	223,992
	計	742,008	934,778	192,770
	合 計	27,900,000	30,907,770	3,007,770

歳出

款項	種目	予算額	歳出	予算現額	決算額	比較増減	付記
事務費	1)給料手当	4,800,000		4,800,000	4,591,788	208,212	
	2)保険料	350,000		350,000	322,565	27,435	
	3)交通費	700,000		700,000	575,500	124,500	
	4)旅費	50,000		50,000	29,550	29,450	
	5)交際費	600,000		600,000	438,000	162,000	
	6)需用費	250,000		250,000	172,763	77,237	
	7)備品費	180,000	33,546	233,140	233,140	0	
	8)印刷製本費	300,000	24,759	324,759	324,759	0	
	9)通信運搬費	500,000	129	501,293	501,293	0	
	10)修繕維持費	10,000		10,000	0	10,000	
	11)光熱水費	40,000		40,000	39,000	10,000	
	12)分担金	400,000	14,000	414,000	414,000	0	
	13)雑費	150,000		150,000	60,150	89,550	
	計	8,330,000	95,192	8,423,192	7,684,368	738,384	
事業費	1)組織対策費	1,000,000		1,000,000	623,500	376,500	
	2)会報発行費	3,300,000		3,300,000	4,920,243	379,753	
	3)会員管理費	2,800,000		2,800,000	2,129,871	670,129	
	4)名簿作成費	300,000		300,000	490,533	9,467	
	5)下宿対策費	10,000		10,000	8,616	1,384	
	6)図書借与費	300,000		300,000	300,000	0	
	7)式典費	2,400,000	115,341	2,400,000	1,277,560	1,121,440	
	8)母校訪問費	400,000		400,000	367,229	32,770	
	9)負担補助援助費	600,000		600,000	550,000	50,000	
	計	13,310,000		13,310,000	10,667,552	2,641,448	
	23)総会費	700,000	15,987	715,987	715,987	0	
	24)役員会費	300,000		300,000	233,180	66,820	
会議費	25)連絡協議会費	300,000	65,481	365,688	365,688	0	
	26)旅費	900,000		900,000	816,230	83,770	
	計	2,200,000	81,675	2,281,675	2,131,085	150,590	
積出し金	27)年賀状封筒等	300,000		300,000	176,196	123,804	
	計	300,000		300,000	176,196	123,804	
積立金	28)積立金	2,800,000		2,800,000	2,800,000	0	
	計	2,800,000		2,800,000	2,800,000	0	
予備費	29)予備費	960,000	△74,867	785,133	0	785,133	
	計	960,000	△74,867	785,133	0	785,133	
	合 計	27,900,000		27,900,000	23,459,641	4,440,359	

歳入額 30,907,770円

歳出額 23,459,641円

差引残額 7,440,129円を翌年度へ繰越しとする。

財産の状況（平成8年3月31日現在）

単位：円

一般会計	引当財産	運用財産	合 計
7,448,129	4,345,090	38,600,000	50,393,219

平成7年度職員退職給与特別会計収支決算書

単位：円

款項	種目	予算額	決算額	比較増減	付記
1)前年度繰越金		4,054,405	4,054,405	0	
計		4,054,405	4,054,405	0	
2)職員からの積入金			75,504		
一般会計より積入金		300,000	176,196		
計		300,000	251,700	△48,300	
3)雑取入		5,595	38,985	33,390	
計		5,595	38,985	33,390	
合 計		4,360,000	4,345,090	△14,910	

歳出

款項	種目	予算額	歳出	予算現額	決算額	比較増減	付記
1)職員退職引当金		4,360,000		4,360,000	0	△4,360,000	
計		4,360,000		4,360,000	0	△4,360,000	
合 計		4,360,000		4,360,000	0	△4,360,000	

歳入額 4,345,090円

歳出額 0円

差引残額 4,345,090円を翌年度へ繰越しとする。

「母校を訪ねる会」第16回目を開催

昭和56年に発足した「母校を訪ねる会」は、回を重ねる毎に校友の皆様から予想以上の好評を戴き、運営に携わる関係者を感激させております。

平成8年度の「訪ねる会」は、第16回目を数え、平成8年10月20日、学部祭中の日曜日に開かれました。この会には主として第4回と第24回の卒業生の方々が招待され、それぞれ25名と93名の合計118名の方々がご出席さ

れました。これで通算1,607名の校友が訪れたことになります。

会の前日には各科単位の同級会が開かれ、さながら前夜祭のように昔日の郡山を懐かしみながら、夜遅くまで闊歩されていました。最近はご家族同伴の方も多くなりましたし、また諸先生方と懇談する機会を利用しての求人活動も盛んになりました。



母校を訪ねる会に出席して

久高 将栄

平成8年度の母校を訪ねる会が、10月20日に行われ、40年振りに母校を訪ねる機会を得ました。当日は早々にかけつけ、学部祭で賑わうキャンパス内を見て廻ったが、発展著しいキャンパスの何処にも40年前の面影はなく、これが我が母校か、と只々感激するばかり、僅かに正門の桜並木だけが、時の流れを語りかけている様な気がして、万感胸に迫る思いでした。時間がたつにつれ、次々と同期の諸君も会場に姿を現したが、40年の歳月は、黒髪童顔から白髪老顔に変えてしまったが、どの顔を見ても、懐かしい顔、顔、顔、正に感激の再会であり、感動の連続でした。この様な素晴らしい出会いの場が持

てたのも、校友会の役員並びに学部の諸先生方が企画して下さった御陰であり、心から感謝申し上げます。懇親会では、特に蓬田工学部長や、木村校友会長から、50周年記念事業への資金援助要請があつたので、都合で出席できなかった諸君に、本紙を通じてお知らせします。懇親会も、



和やかのうちに、午後3時前まで続いたが、ただ残念なのは、当時の先生方の殆どが故人になられた事、就中、今後の御活躍が期待されていた菊地光子さん（工化2回卒）、高野操さん（工化3回卒）、三沢好夫君（建4回卒）等が他界された事は、痛恨の極みであり、心から御冥福を祈ります。解散後、私共土木4回卒の面々は二次会を行ない、酒を酌み交し乍ら旧交を温め合ったが、最後に、50周年を記念して同期生会を催すことを申し合わせ、再会を誓い合って郡山を後にした。終りに、母校の益々の御発展と、校友の皆さんのお多幸を祈念いたします。

（土木4回卒）元沖縄県土木建築部長

母校を訪ねる会に参加して

藤本貞盛

第4回卒業生が、母校を巣立ってから40年、待ちに待った“母校を訪ねる会”に参加できる日がやっと來た。

会の連絡が來たので、早速、近況の分かっているクラスメートに、電話連絡したところ、病気、都合のつかない人もあったが、やっと7人が参加することとなつた。

そこで、前日に集まり、まず前夜祭をやることにした。場所は岳温泉である。集合場所は、郡山駅改札出口で15時とした。会った最初は、直ぐに思い出せない人もいたが、段々と分かって來た。

一風呂浴びて、酒を酌み交わす頃は、学生時代の顔とダブリ、卒業実験、卒業設計の話、エスカレートして遊びの話までなつて、夜半まで続いた。まだ勤めている人、悠々自適の人それぞれだが、皆、元気だったのが何よりもうれしかった。

会当日は、1時間半位前に到着し施設を見学して廻ったが、我々が学んだ校舎（兵舎）の面影は跡形もなく（当然だが）素晴らしいキャンパスに感嘆すると共に今様浦島の感あり…。

待機室にいると、同期生が集まり始めた。他科の人達と名乗り会い、手を握り顔を見つめ合い、オーッ誰々か！と言ひながら40年振りの再会を喜び会う。遠く沖縄から、久高君（土木科）が参加したのには驚くと共に、非常に嬉しかった。

第4回卒業生を代表して、挨拶をするように急遽指名された。何も用意して無かったので、入学当時の話をした。

郡山より列車で安積永盛迄来て、阿武

隈川に架かっていた“通称・賃取り橋”（木の板を並べた橋で渡り賃を払った）を渡り、アカシアの花が一杯咲いていた林の小道を抜け、次は、一面、菜の花の咲



いている畠道を通って校舎（兵舎）へと辿り着いた話をしたところ、24回卒業生は、想像もつかない話に、狐につままれた様な顔をしていたが、同期生はファンファンとうなずきながら、懐かしそうな顔をして微笑んでいたのが印象に残った。

最後になりましたが、こんなに素晴らしい会を企画して下さった、校友会事務局、学校当局及び関係者の皆様に改めて感謝すると共に母校の益々の繁栄を祈願致します。

（機械4回卒）株田中建築事務所

母校を訪ねる会に参加して

桑名茂司

“やあ、久しぶり”卒業40年後第一回目の同級会である。世の中の様々な試練の波に耐えて來たであろう懐かしい友がいた。

電気工学科第四回卒業生は28名中12名が平成8年10月19日、郡山ビューホテル・アネックスに各地から集合した。御指導頂いた先生方は残念ながら他界された方々が多く、同級生のみの会合となつた。学生時代の思い出話から現在にいたるまで、様々な話に花が咲き、夜更けても止まらなかつた。誰とはなく次回はもっとゆっくり温泉につかって一泊で同級会を行うことが決まった。

翌日“母校を訪ねる会”に招待され工学祭に相当する北桜祭も見学した。母校も発展、飛躍をとげ、学生数、設備も第二工学部時代とは天地の差があり、夢の様な変貌ぶりであった。

懇親会に於いては学校の様々な立場の方々からスピーチがあり、現状・未来の

御説明を頂いた。この中で将来の学生数減少に対する問題…あったが、今後母校も大変な試練の時代だと思う。校舎、設備など、物の面では充実されても、若者



の“こころ”をとらえる熱気、感動と云つたものがこれから大きな課題であり、今後の発展に欠かせない様に思われた。

“フレー、フレー日大工学部”

(電気4回卒) 松下精工株

『母校を訪ねる会』に参加して

徳井 裕 昭

「母校を訪ねる会」に参加する為、20年振りに郡山を訪れた。福島空港から郡山へ、かつて走ったはずの道が蘇ってこない。記憶を辿りつつ、見覚えのある建物を探す。「あつた！でもこの辺は水田だったはず。」と思いつつさらに吃驚、「郡山駅がデッカイ！」。その夜、市街を散策しながら、「同窓会」のホテル・アネックスへ出席した。見たことのある顔がいっぱい有る。学生時代が急に蘇ってくる。原先生がいる。懐かしい！昔憧れのオペルのクーペが思い出される。夜遅く迄、学生時代にタイムスリップした思いがした。翌日、昔住んでいたマンションを見つけ、有った！と歓声を上げながら懐かしい母校を訪れた。北桜祭で賑わっている。女子学生が多いのに驚いた。構内はすばらしい環境になっている。守衛さんに、展望レストランを教えて頂き、景観を満喫した。これが桜の季節ならと心残り。学食で昔懐かしいカツ定を注文し、教室に入り席につく。学生時代の頃が目に浮かび懐かしさで心が満たされた。

こうして、感激を与えて頂いた先生、事務局、校友の皆様に心より感謝致します。更に20年後はどのようになっているか、楽しみに郡山を後にしました。

(土木24回卒) 徳井建設工業株



母校を訪ねる会に参加して

原 内 明 良

10月19日、卒業して以来20年振りに四国は高松から郡山に帰って来ました。まず東京から郡山まで1時間15分位で到着、速いのにおどろく。私たちが卒業するまでに東北新幹線が開通する予定であったが、オイルショックによる不景気で大幅に遅れ今回初めて乗ったのである。以前は上野から郡山まで特急で2時間半、急行で4時間かかるようやく辿り着いたという感じであった。駅についてすぐ、浜尾誠也君の案内で会津、野口記念館等へ行きましたが、高速道が出来て非常に便利になっていました。あちらこちらと回るうち、次第に20年の昔を思い出していました。尚、浜尾君の紹介で食べたソバは大変おいしく今回の旅での良き思い出の1つとなりました。

19日夜は、建築24回卒同窓会に参加し、懐かしい先生方ならびに友人たちと一夜を過ごしました。翌20日は大学での母校を訪ねる会に参加し北桜祭を見学、すべてがなつかしい時間を過ごすことが出来ました。学ぶことの大切さを社会人になって初めてわかった私ですが、皆様に負けない様さらに成長し、今回会えなかつた級友たちとの再会も期待しています。



最後にこの機会を与えて下さった校友会、同級会幹事の方に深く感謝いたします。

(建築24回卒)

『母校を訪ねる会』に出席して

小賀坂 義 弘

『母校を訪ねる会』の前日の10/19、地元の石井、安倍君達の計らいで同級会を企画して頂き磐梯熱海温泉楽山旅館で一夜を過ごし、卒業以来の人達と親交を温め、それぞれの近況について語り合いました。

級友17名が集まった24回卒同級会には、菅野宗和教授、小川明教授、依田満夫教授、佐藤光正助教授にご出席頂き、日大工学部の現状や少子化対応に向けた日大のこれからの方針を聞かせて頂きました。又、久し振りに聞く福島弁に『あー、これが福島弁だった』と、忘れかけていた物を見つけ出した思いがしたと共に、20年の歳月をつくづくと感じました。又、近況の中では、自分で会社を起業した人、会社の中堅で頑張っている人、更にはこれから大学院に進学する人と、様々な人間模様があり、大変勇気付けられました。

『母校を訪ねる会』の懇親会終了後、依田教授に誘われて、材料の破壊強度研究の一端を見学させて頂いた事は、私にとって非常に有意義でした。それは地道な研究をコツコツと続けている後輩の姿を



実感出来た事によるものほかありません。

最後に、工学部及び校友会、並びに同級会の幹事の方々に感謝すると共に、母校の益々の発展と良き後輩が続出する事を願いつつペンを置きます。

(機械24回卒) 富士写真フィルム(株)小田原工場

お願い

会報発行委員会

会員の皆様には、日常生活の中でこれは校友に紹介したいと思う事柄や、様々な会合を持たれた方がお有りと存じます。

編集者は、これらを会員諸氏に広く伝達する主旨から、『校友情報』としてご提供下さるようお願い致します。

尚、ご投稿は、下記の要領でお願い致します。

記 コメント投稿字数 70字まで

写真1枚 (12×8cm) 以上

支部総会・同窓会・クラス会

平成8年度 四国支部総会

支部長 北岡保之

平成8年7月27日、総会を例年どおり高松市内わたらや旅館で開催した。なお昨年と同様、昼間猛暑の中、坂出C.C.で愛媛からの参加も含め15名でゴルフコンペを行い、大いに楽しい時間を過ごした。

総会には22名の出席があり、都合により出席いただけなかった本部の木村会長よりの「日本大学工学部50周年萬歳」など4つの檄文が披露され、また谷久顧問から去る4月の本部総会の報告、支部活動を活発にするための次回総会の開催地、ゴルフコンペの開催時期等について話合った。

懇親会では、松波先輩の乾杯の音頭で開

宴となり、醉が回るなか恒例の自己紹介、コンペの表彰、カラオケ、最後に寮歌、校歌の大合唱で、来年度の再会を約し、無事終了した。なお今年は代表等への昇任者も多く自己PR、情報交換にと大いに盛り上



がった。

支部活動としては、7月の総会、ゴルフコンペ、また折に触れ集まり飲んでいます。気楽に参加できるようにしたいと思いますので、ご一報いただければ幸いに存じます。

(工化14回卒) 高松市下水道部長

平成8年度 東海支部総会報告

事務局 乾 高 章

第24回東海支部総会は、去る7月26日に例年どおり名古屋駅前のホテルキャッスルプラザにおいて、70余名の諸先輩方の出席のもとに開催しました。

平野支部長より、この1年の東海支部の活動報告の後、校友会新会長の木村圭二様よりご挨拶を頂きました。そして、東海支部役員改選に入り、原案通り満場一致で承認され、総会は終了しました。東海支部新役員は次の通りです。

支 部 長	平 野 卓	(土木3回卒)
副支部長	綾 川 秀 人	(機械3回卒)
〃	荒 井 勝 雄	(土木5回卒)
事務局長	近 藤 直 幸	(土木28回卒)
会計監査	浅 藤 良 孝	(土木16回卒)
〃	下 里 正 美	(土木19回卒)
理 事	河 重 野 叶	(土木6回卒)
〃	遠 田 英 生	(電気6回卒)
〃	三 山 宏	(建築7回卒)
〃	宅 徹 明	(土木14回卒)
〃	川 村 智 健	(土木15回卒)
〃	古 市 恵 一	(建築15回卒)
〃	市 川 三 千 男	(建築17回卒)
〃	高 田 和 典	(電気17回卒)
〃 (事務局長)	高 章	(土木32回卒)



その後、懇親会に移りました。本年は父母懇談会の日程が、9月に変更されたため、先生方がご出席されず誠に残念な事でした。それでも、乾杯の後、皆、旧交を温め、近況を語り合い、最後には恒例となりました

日大節・応援歌・日本大学校歌を出席者全員で肩を組み、齊唱し、再会を約しました。

当東海支部の活動としては、この総会、懇親会のほかに春と秋のゴルフコンペ、忘年会等々を催し、世代を超えて皆、和気あいあいと親睦を深めておりますので、東海支部の若い卒業生、単身赴任の方々でも、お気軽に参加していただければ、幸いに存じます。

(土木32回卒) 川北電気工業(株)

九州支部総会

事務局長 脇 山 亨 治

- ①会名称 第16回日本大学工学部校友会
九州支部総会(アカシア会)
②日 時 平成8年10月4日(金)
③会 場 福岡市中央区天神『平和樓』
④参加人員 38名

1. アカシア会では、毎月第3木曜日に福岡市天神「ロビーサン」にて、18:30～20:30まで集まれる人はいつでも参加できる会を開催致しております。初参加の方やいつも参加される方、年に1、2度参加される方いろいろおられます。毎回5～10人の参加ですが、けっこう盛り上がりります。みなさんいつでも参加OKです。

2. 毎年11月の1日から3日間は柳川市の北原白秋生誕地において、白秋祭川下りを建築53年卒砥上建設の砥上さんのお世話でここ5年間開催しております。屋形船には、12人乗船出来ます。船頭さんが竹ざおで船をあやつり、川辺のミス柳川、おはやし、コーラスなどなどたくさんの催し物を見ながら船上でうなぎを食し、酒を酌み交わし、花火で遊びながら18:00から約2時間、最終地点の御花→白秋生家で140艘あまりの屋形船が白秋の歌を聞きながら集結し、盛大な打上げと仕掛け花火で、1回のフィナーレがおとずれます。今年はフィナーレの時に大雨にみまわれましたが、白秋祭が始まって何十年ぶりかの雨という事で、思い出に残る会でした。毎年みんな楽しみにしています。

3. 10月5日(土)は、那珂川町の筑紫ヶ丘カントリークラブにて、ゴルフコンペを開催しました。今回は皆さん色んな会と重なって、残念ながら2組8人の会でしたが、

好天に恵まれ楽しい一日を過ごしました。

4. 4月13日～14日に由布高原カントリークラブにてゴルフコンペが開催されました。新装オープンのゴルフ場に2組8人の会でしたがこの日も好天に恵まれ、4月から開通した高速道路で福岡から2時間弱で由布院に着き、ゴルフの後、建築39年卒中



母校訪問とクラス会

佐藤 満夫

平成8年10月5日・6日、1泊2日の予定で、母校訪問とクラス会が開かれました。38年前の卒業生ともなりますと、参加者が少なくなつて来ましたが、それでも級友17名同伴ご夫人5名の計22名が参加しました。5日(土)は午後1時に工学部キャンパスに集合、北は北海道斜里から、南は山口県下関からと、疾うに還暦を過ぎた面々であります。当日は土曜日の午後のため、新装なった本館と図書館内の見学を致しました。情報研究棟8階屋上からキャンパスを眺望、38年振りで母校を訪ねた者もいますので、昔の面影の無いキャンパスと、大きく変わった大学構内の環境に驚いていたようでした。また、下宿先があった徳定村、御代田、金屋の方角を確認し合い、学生時代を懐かしんでおりました。北心寮生であった名古屋の東松君は、「北心寮跡」の石碑を庭園内で目にし、当時の寮生仲間と恩師を偲んでいたのが、特に印象的でした。学部庶務課の計らいで、平成8年版「工学部案内」を配布していただき、工学部の教育理念、方針、将来展望、学部構成、教授陣容(スタッフ)等を見聞し、その環境設備の充実と進歩発展に感心したものです。

村工業の中村さんの温泉が湧き出る別荘でゆったりくつろぎました。夕食は、亀の井別荘の湯の岳庵にて地鶏・地酒で宴会を開き、これまた楽しい一日を過ごしました。

5. そして今回、事務局長を建築43年卒・(株)イマフクの今福さんから建築56年卒・(株)北洋建設の脇山に変わりました。

以上、1年間のスケジュール等を報告し和氣あいあいの中、平成8年度第16回の総会及び懇親会を終了し、校友会木村会長ともども、2次会の夜の中州へ消えました。

<お知らせ>

H.8.3. 湯村筑後氏(建10回卒)の奥様他界

H.8.9. 横村武夫先輩(機9回卒)他界

(建築29回卒) (株)北洋建設



夜は、磐梯熱海温泉「ホテル向滝」に宿泊、宴会は、夫婦同伴ということでもあり大変盛り上りました。仲間には会社の社長、設計事務所所長、大企業の幹部、すでに公職を離れ第2の職場で活躍中といろいろの人生ですが、学生時代の思い出、仕事、子供、孫の話しなど夜の更けるのも忘れる有意義な懇談でした。

翌日(6日)は、会津、裏磐梯方面の観光組と、ゴルフ組(郡山ゴルフクラブ)に分かれ、より一層の親睦を深め合いました。

我々のこの会は、ここ4、5年毎年続けておりまして、北海道、沖縄と各地の級友が幹事となり開催されております。

平成9年は、大阪在住の級友が幹事で次回の会場準備が決まり、「お互いに健康で」を合言葉で再会を約し、クラス会が無事終了いたしました。 (建築6回卒)前工学部事務長

「卒、30周年記念同級会の報告」

早川一胤

早いもので、平成8年4月で卒業30年となつた。二工会（土木工学科14回卒）のクラス会を始めたのが卒業20年でしたので、記念の30年も郡山で行うことにして、工学祭に合わせて、10月19日（土）、18:00より磐梯グランドホテルにて木村先生をお迎えして実施した。（特別ゲストとして、村田先生…我々よりも2期先輩も参加）



久しぶりの郡山で、初めて磐梯熱海温泉にて豪華に行った。木村先生から工学部の新しい案内書を全員に配布し、工学部の発展状況を聞いて、10年ぶりの先生及び級友の話で、時間があっという間になくなってしまった。なお、有志は朝からゴルフコンペで汗を流した。優勝者は、二宮嘉浩君、ベスグロは、高木誠司君（43.39）でした。

翌日は、工学部へ行き、30年目の発展状況を目にする。情報棟展望室での見晴らしの良いCoffeeは格別でした。

（土木14回卒）東京都水道局

佐藤満夫卒業研究室同窓会に参加して

土岐 悅雄

平成8年春に、佐藤満夫先生が工学部を退職されると聞き、研究室出身者の第1回同窓会を兼ね、先生を送る会を開こうということになり、平成8年5月19日、郡山ビューホテルアネックスで開催されました。

昭和44年度卒から昭和59年度卒までの、北は北海道から南は九州まで、遠方から40名の方が参加されました。恩師佐藤先生を囲み、最近の話題から学生時代の様々な思い出まで、なごやかに、そして本当に楽しい時を過ごさせていただきました。



また翌日は、「郡山ゴルフクラブ」にて、ゴルフコンペを開きました。前日夜遅くまで二次会等で疲れていたにもかかわらず、16名の方が参加され、一層親睦を深めました。

これを機会に、同窓会をまた開催しようということになりましたので、今回参加出来なかった方も次回には参加されるよう期待しております。（建築20回卒）前田建設工業（株）

日本大学工学部 アカシア建築教育研究会…設立

事務局 永田 進

この度、母校工学部の開設50周年という記念すべき年にあたり、母校の発展の一助になればという願いと、互いの親睦と教育・研究の向上のために、日本大学工学部建築学科（含専門部）を卒業し、教職に就いている（含既退職者）諸兄を対象に『日本大学工学部－アカシア建築教育研究会』が設立（平成8年8月7日）されました。

設立にあたり、北は岩手、南は滋賀県から各地区の代表者13名が集まり、名誉会長に建築学科主任教授の佐藤平先生にお願いすることに決定し、会長に日大東北高校・新井健一郎先生を選出致しました。



この会は全国組織のため、その設立には、多くの困難が予想されましたが、多くの卒

業生の熱き期待と、工学部建築学科の先生方のご理解・ご協力により設立できました。平成9年8月23日(土)には、思い出の地・郡山で、研究大会を開催すべく準備中であります。会員の皆様には何卒ご参集いただけますよう、お願ひ致します。

さらに、今後は、建築学科のみならず、すべての学科の卒業生も含む会に発展させ、より多くの優秀な後輩を工学部に進学させたいという考えももっております。校友の皆様のご指導、ご協力をお願ひいたします。

(建築21回卒)静岡県立静岡工業高校

「あかしや建友会」第三回総会・講演会

水上 崇

10月12日、郡山研修会館にて福地利夫名誉教授をはじめ顧問の先生方を招き、会員約30名の出席のもとに、第三回総会と講演会が催された。

講演会では、五十嵐靖彦氏(昭45卒)が「設備設計から見た施工管理の一例と身障者トイレについて」、臼井悟氏(昭62卒)が「老人保健施設の設計に携わって」と題して講演された。又、青森の石橋先輩(昭47卒)は、今は故人となられた八森先輩の武勇伝を懐かしく回顧された。



本会は、平成6年に故幸田太一先生並びに福地利夫先生の門下生約500名に情報の交換と親睦を深める目的で呼びかけたところ、OB並びに学外からの賛同者が参集して発足したものです。連絡先は次の通りです。

会長：浦 憲親(昭47修卒、金沢工業大学)
事務局：渡澤研究室(本学建築学科 0249-56-8731)
(昭51建築修卒)郡山生コンクリート㈱

建築14回・同窓会「夢一夜」

渡澤 正典

「第二工学部」最後の卒業生である私達

は、この度、佐古倫平君を名誉会長に担ぎ上げ、幹事諸氏の協力のもとに、11月2日、東京・霞ヶ関の「三井俱楽部」において、卒業30年目の同窓会を開催しました。

恩師の谷川先生をはじめ小栗・橋本両先生のご臨席をいただき、又、遙々北海道、四国あるいは私達同期生のマドンナ達を迎えた総勢60余名の盛大な同窓会でした。



先生方のお話に、心はすっかり学生時代にワープ。友との語らいに、皆、昔日の輝きを取り戻していました。又、今日までの心労は多くを語らずともその心身に現れ、同期生として共感を覚えるものでした。

たかだか数時間の再会でした。しかし、そこには、私達がこれから歩む人生への指標が、数多くあったように思います。

次回は、年齢制限(?)も有って5年後のようにです。皆さん、それまで、くれぐれもお元気で!!またお会いしましょう。

(建築14回卒)工学部建築学科

支部役員の紹介

北海道支部

支部長 松山 忠祐(上木14回卒) 東急建設㈱
事務局長 鹿野 健治(上木17回卒) 札幌市役所

東京支部

支部長 吉村 和夫(上木3回卒) 吉村建設㈱

東海支部

支部長 平野 卓(上木3回卒) 東京エンジニアリング(株)名古屋支店
事務局長 近藤 直幸(上木28回卒)新見コンサルタント㈱

九州支部

支部長 湯村 篤後(建築10回卒)福岡ビーシー㈱
事務局長 脇山 亨治(建築29回卒)北洋建設㈱

四国支部

支部長 北岡 保之(工化14回卒)高松市下水道部
事務局長 牧野 隆次(建築22回卒)JA香川経済連

若葉マーク がんばり記



新入社員＝無我夢中

東海メディカルプロダクツ開発部 新 海 知 之

新入社員としての近況を「新入社員＝無我夢中」の場をお借りして報告いたします。

私は、平成8年に日本大学大学院工学研究科を卒業し、現在は、(株)東海メディカルプロダクツ・開発部に勤務しております。当社は、身内の心臓疾患を救うべく、必要に迫られて始めた社長夫妻の“ライフワーク”ともいべき人工心臓の研究に、その端を発しています。

まず着手したのは生体適合性材料の研究で、東洋紡績(株)との共同開発を手始めに、そのたゆみない研究活動は10年の歳月を経て、国産初のIABPバルーンカテーテル(補助循環法の一つ)、さらにはPTCAカテーテル(経皮的冠状動脈形成術)の製品化に成功しました。IABPバルーンカテーテルは、従来使用されている市販のものに見られる合併症やバルーン破損事故を回避して、高い信頼を現場から得ております。この間、産官学の協力を得て、学会発表や学会開催と多角的な活動を推進し、研究活動の幅を広げつつ今日に至っております。

我が国での医療機器分野の進歩は、リスクを背負うその性格から、利益追従型の開発姿勢のもとで遅れをとっていました。当社はこの障壁を打破し、今こそ新しい姿勢、倫理を創出させるべく、研究開発に重点をおき設立当初から一貫して「直接生命の現場を見守る」姿勢を守り続けております。

そこで、

1. 医療現場と緊密に結びついて行動し、その声を確実に研究開発および経営に反映させていく

2. 徹底した製造管理のもと、ゼロミスをめざす

3. 様々な分野の研究者と協力して科学・医療技術の調和ある進歩をめざし努力する。

以上のような理想を掲げ、更なる展開へと日々精進しております。

また当社の製品は、生命と直結した場面で

使用されるため、仕事を遂行していく社員一人ひとりには、常に医療に貢献するという情熱が必要とされます。そのため当社では、積極的に学会に参加する、または病院の先生に講演や勉強会を依頼・開催するなどして、医療現場に携わる人々の声を直に聞く機会ができるだけ多く設け、医療器具メーカーとしての意識を全社員に浸透、その土台作りに努めています。

私の勤務する開発部では、病院や大学などの医療・研究機関と協力して、現在約30のテーマに取り組んでおります。どの開発テーマについても、パートナーである病院や大学の医師・研究者たちと直接意見を交換する情報収集から始まり、改良点などを調査していきます。この時、手術の現場に担当者が直接立ち会う場合も多々あります。こうして収集した情報や豊富な臨床経験を持つ医療分野の専門家の意見などをもとに、材料、成形・加工法、デザインの3つの側面から独自のノウハウを活用して、工学的な技術で試作品という形にしていきます。開発テーマによって試作期間はさまざまですが、この時、製品としての製造方法や検査方法までも考慮して、生産が開始されるまでを担当します。

こうした新しい環境の中で、間もなく一年が過ぎようとしています。初めは、フットワークの軽い先輩方を見て圧倒されることばかりで、今でも社会人の身のこなしの良さに面食らうことがしばしばあります。それでも少しづつ責任ある仕事を任される状況まできました。そして、私は医療用具メーカーの一員で医者ではありませんが、なんとかして患者の命を救いたい、苦痛を和らげたいという気持ちを持ち、医学と工学を結びつけた製品を介して、社会に貢献していきたいと考えながら毎日を送っております。

末筆ながら、母校のますますの発展を祈念すると共に、校友の皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

(工学研究科工業化学専攻 前期課程修了)

公共事業と会計検査院

会計検査院郵政検査課専門調査官

盛 武 建 二



私達の年代は日本経済の高度成長期と青年期とが重なっており、それは、また経済成長とともに公共事業も増大した時期である。私は昭和44年3月土木工学科

を卒業後、宮崎県、建設省を経て、会計検査院に奉職した。会計検査院では建設省、農水省、日本道路公団関係の各検査課で総括副長を経験し、現在、郵政検査課専門調査官として郵政事業の検査に従事している。また、昭和63年12月から平成3年12月までの3年間は、6年9月に開港した関西国際空港の建設主体である関西国際空港株式会社の調査役として国家プロジェクトに参画する機会を得た。この事業は大阪湾の泉佐野沖合4kmの海面（水深20m、写真参照）を埋立て、埋立地500haを造成し、滑走路、ターミナルビル等を施工して新空港を建設するものである。私の在職中には海底面に100万本のサンドコンパクションの打設、埋立厚30mを上回る土砂の投入、これによる1年間で1mを超える海底の圧密沈下、陸地と埋立地を結ぶ4

kmの連絡橋の建設、橋脚の長大鋼管摩擦杭の検討などがあり、色々と貴重な経験をすることことができた。本レポートは公共事業にたずさわる者が少なからず関係するであろう会計検査院の活動について報告するものである。

(決算検査報告)

会計検査院の実態を知るうえで最も効果的なものとして、毎年1回公表されている決算検査報告がある。この報告には公共工事の発注機関の立場、その受託者である建設業界の立場など、色々な立場で会計検査院と接点のある校友が、

今後の公共事業を遂行するうえで参考となる問題点が色々掲記されている。

会計検査院は日本国憲法第90条の規定により、国の収入支出の決算を検査し、毎年12月、決算検査報告を作成するとともにその内容を公表している。この検査報告には歳入歳出の決算に関する事項、法律、政令若しくは予算に違反し不当と認めた事項などが掲記されている。この報告は会計検査院の調査官が国の会計監査役としての立場から国の機関や特殊法人、補助金を受けている地方公共団体が実施した公共事業などを検査した結果について取りまとめた報告書であり、会計検査院の活動状況がここに集約されている。

(会計検査院の構成)

会計検査院には意思決定機関である検査官会議と検査を実施する事務総局とで構成されている。検査官会議を構成する3人の検査官は裁判官並の独立性が保証されている。実務を担当す

る事務総局の職員1250人のうち、約700人が会計検査の中心となる調査官で、各検査課に所属していて検査に従事している。会計検査の対象となる「会計」は金銭の出納や記帳という狭い意味での会計ではなく、国の各種の行政活動に伴う経費使用という意味である。したがって、検査を遂行するに

あたっては、検査対象機関の行政や業務の内容をはじめ、法律、経済はもちろんのこと、土木、建築に関する幅広い知識が要求されるため、多くの技術系調査官が在籍している。

(検査活動)

実地検査は毎年1月から7月まで地方出張、8月の夏休み期間のあと、9月の本省などの検査で締めくくりとなり、調査官1人の平均実地検査日数は80日間から90日間程度となっている。一方、検査を行うにあたっての観点については、決算検査報告で次のように多角的な側面を示し



写真 空港島造成工事完了 (91.12)

ている。

- ①決算の表示が予算執行の状況を正確に表現しているかという正確性
- ②会計経理が予算や法律、政令などに従って適正に処理されているかという合規性
- ③事業が経済的、効率的に実施されているか、つまり、より少ない費用で実施できないか、同じ費用でより大きな成果が得られないかという経済性、効率性
- ④事業が所期の目的を達成し効果を上げているかという有効性

近年、国などが行う事業が広範囲にわたり、かつ、複雑さを増していることに対応するため、検査の観点も自ら伝統的な正確性、合規性の側面に加えて、時勢に適合した側面を開拓していくなければならない。このことから検査する側においても経済性、効率性、有効性の側面（それぞれEconomy, Efficiency, Effectivenessであることから、総称して3 Eといわれている）に相当の重点を置かざるを得ない状況となってきている。これらの側面からの検査を具体的な工事に当てはめてみると、工事の計画や設計が適切に行われ、経済的に実施されているか、契約額は適正か、工事が設計どおり施工されているか、建設した施設などが事業目的どおり使用され効果をあげているかなどの見方となる。例えば、構造物をつくると主に設計どおりきちんと工事を行うのは当たり前であるが（合規性）、新しい工事のやり方を踏まえて経済的に執行されているかどうか（経済性）、造っても利用する人が少ないということはないかどうか（有効性）、ということになる。

（検査報告作成過程）

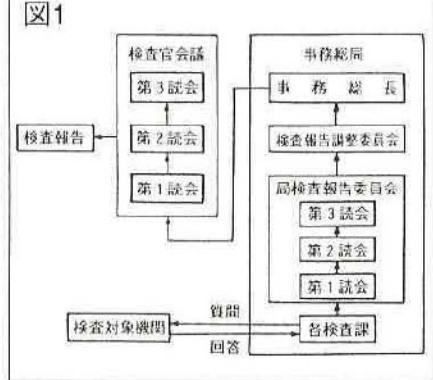
検査を行う過程で当局の会計経理の処理などに関して発掘した問題点については一般に質問（会計検査院では「照会」とも呼んでいる）という形式で受検庁の責任者に対して文書による問い合わせが行われ、年間900余事項について質問を発している。

この質問は決算検査報告に掲記するかどうか検討する、その準備のためのものである。なお、調査官が実地検査の過程で今後質問を發しようと考えられる不合理な事態を発見したときは、実地検査の最終回に受検庁との間で行われる「検査結果の打合わせ」などの席において、これ

らの不合理な事態を知らせるようにしている。

検査結果として検査報告において公表される検査院の所見は、検査対象機関の会計経理に対する批判官序として、判断の公正を確保することが要請される。このため指導事項を検査報告に掲記する際に審議を慎重に行うために、図1に示すような何度もチェックが行われている。

まず、第一段階である質問の中では、会計検査院が認定した会計経理上の事実、それについての評価、不適切な事態の発生原因、このような事態に対する処理方針を



述べ、以上についての回答を求めている。この質問に応じる回答を受検庁の責任者から受理することになるわけであるが、その際、双方で事実の認定、これに対する評価に関する見解が食い違う場合もあり、この見解の差異を調整するために、回答を受け取る前に、どのような回答内容にするかについて折衝が行われている（「回答折衝」と呼ばれている）。ここでは会計検査院の調査官と、受検庁の担当者がそれぞれの主張を述べ合い、事実、評価、処理方針などに関する共通した認識を得るために重要な折衝が行われる。この質問およびこれに対する回答は、指摘している問題点を検査報告に掲記するための審議の際に主要な資料となる。そして、質問で指摘している事態が検査報告に掲記するに値するものか、記載されている事実および趣旨が適切に表現されているかなどの点について、会計検査院の内部で審議される。各局の検査報告委員、次いで官房の調整委員会、さらには事務総長の下での審議を経て、検査官会議に至るという形式で行われる（最高の意思決定機関である検査官会議は3人の検査官によって構成される合議制の機関となっている）。検査報告はこのような慎重な審議の後に作成されている。

（最近の問題点）

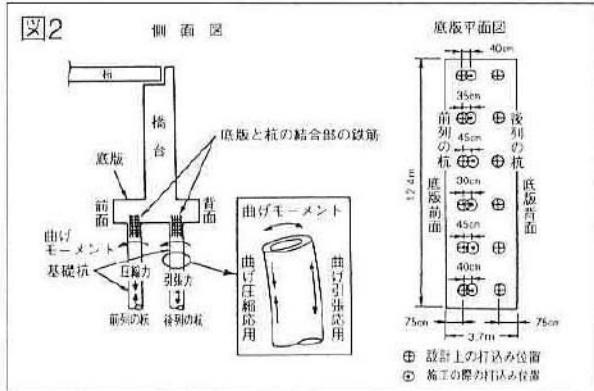
最近の検査報告では阪神・淡路大震災による

被災状況を踏まえ、構造計算に関する事例が設計、施工の両面から問題にされており、橋脚、橋台、基礎杭、支承、ボックスカルバートなどに関するものがあり、主な事例を説明したい。

1. 橋台の基礎杭の施工位置が設計と相違しているもの（図2）

[概要] 県は、平成5、6両年度に、橋台1基の築造、桁の製作架設を工事費7600万円で実施している。

[基礎の設計] 橋台は高さ6.9m、底版長さ12.4m、幅3.7mの鉄筋コンクリート、基礎杭は直径60cm、長さ15mのPHC杭B種（圧縮応力度80kgf/cm²）で



底版の全面端部（前列）、背面端部（後列）から、それぞれ75cmの位置に6本、計12本打ち込む設計としている。つまり、杭を75cmの位置に配列すれば、杭の曲げ引張応力度、杭と底版の結合部の鉄筋の引張応力度が許容応力度を下回り、応力計算上安全であるとしている。

[基礎杭の施工位置の検査] 前列の打込み位置の測量を誤ったため、設計で示されている位置に比べ、最大45cm、最小30cm、いずれも内側に打ち込まれている。

[施工している杭の位置における構造計算の結果] 地震時において、後列の杭に大きな曲げモーメント、引張力が作用することとなる。このため、

①後列の杭の曲げ引張応力度は75kgf/cm²となり、地震時許容応力度50kgf/cm²を超える。

②杭と底版の結合部の鉄筋引張応力度は3100kgf/cm²となり、地震時許容応力度2700kgf/cm²を超える。したがって、いずれも応力計算上安全な範囲を超えており、橋台、桁は不安定な状態となっている。

2. スノーケット受け台の基礎杭の一部が地盤

上に突出しているもの（図3）

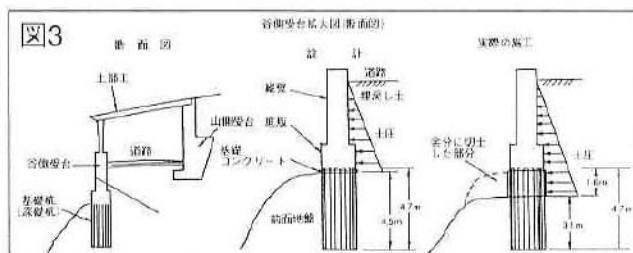
[概要] 県は、平成4、5両年度にスノーケット受け台4ブロック（延長48m）の築造を工事費1億800万円で実施している。

[基礎杭の構造] 受け台1ブロック（長さ12m）は、谷側の斜面を水平に切土した後、基礎杭として、直径2m、杭長4.7mの深基礎杭を切土面から、4.5m根入れすることとしている。そして、基礎杭を切土面から4.5m根入れすれば、杭の前面の地盤にかかる水平力が積雪時、雪崩時、地震時のいずれにおいても、地盤の許容水平支持力を下回ることから安定計算上安全であるとしている。

[切土面が設計と異なったために基礎杭の根入れが不足している] 谷側の斜面を水平に切土する際に、誤って余分に切土したため、切土面が設計に比べて0.9~1.4m低くなってしまい、基礎杭は杭長4.7mのうち3.1mしか根入れしておらず、残りの1.6mの部分は地上に突出したまま基礎コンクリート、底版、縦壁を施工している。

[基礎杭の根入れ不足による構造への影響]

基礎杭の根入れが設計に比べて不足すると、杭の前面の地盤と杭面の接する面積が減少して、地盤の許容水平支持力が小さくなり、受け台背



面に作用する土圧が大きくなる。したがって、基礎杭の前面の地盤にかかる水平力は積雪時56t/本、雪崩時89t/本、地震時139t/本となり、それぞれの場合の地震の許容水平支持力40t/本、61t/本、61t/本を上回っていて、基礎杭は不安定な状態になっている。

[検証] 基礎杭に関する事例は、1. 「杭の施工位置を誤ったために橋台底版の内側に配列することとなり不安定となっているもの」、2. 「切土面のレベルを誤ったため根入れ長が不足しているもの」の2事例のほか、

①橋台の基礎杭を設計計算書に基づいて鋼管杭とすべきところ、コンサルタントが図面を作成する際に、橋台に連続する部

分の擁壁に使用するPC杭を橋台についても同様にPC杭としてしまったため、橋台の基礎杭に生じる曲げ引張応力度が地震時においては 60kgf/cm^2 となり、PC杭（PHC杭A種）の許容曲げ応力度を大幅に上回っており、不安定である。

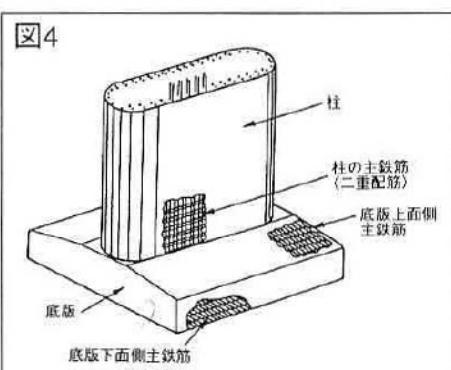
- ②設計図に示された土質柱状図において、地盤面の高さを標高 32.86m とし、この高さから基礎杭（杭長 5m ）が所定の支持力を得るための支持層の位置を定めている。しかし、現地の状況を調査したところ、標高 32.86m は測定を誤ったものであり、正確には標高 30.15m であった。このため、基礎杭の根入れに必要となる支持層の位置も設計で用いた支持層の位置よりも 2.71m 深い位置となり、基礎杭の先端は支持層に到達しておらず、不安定となっている等の事例が報告されている。

3. 地震時に橋脚に作用する水平力を考慮していないもの（図4）

[概要] 県は、橋長 157m 、幅員 8.2m の橋梁を新設するため、平成5、6両年度に、高さ $32.8\text{m}(P_1)$ 、 $36.0\text{m}(P_2)$ 、 $37.2\text{m}(P_3)$ の3基の橋脚を工事費2億300万円で実施。

[橋脚の設計] 橋脚の構造と柱、底版に配置する主鉄筋は次のとおりに設計し、応力計算、安定計算上では、當時、地震時とも安全であるとしている。

- ①橋脚の柱に配置する主鉄筋は、二重配筋とし、 P_1, P_3 は $\phi 25$



mm の鉄筋を 25cm の間隔、 P_2 は $\phi 25\text{mm}$ と 29mm の鉄筋を 25cm の間隔にそれぞれ配置する。

- ②橋脚の底版に配置する主鉄筋については、下面側の P_1, P_2 は $\phi 32\text{mm}$ 、 P_3 は $\phi 29\text{mm}$ の鉄筋を 12.5cm の間隔に、上面側は P_1, P_2, P_3 とも $\phi 16\text{mm}$ の鉄筋を 25cm 間隔で配置する。

[水平力の有無についてのコンピュータ入力に対する検査] 応力計算および安定計算にあたり、地震時には橋脚自身が振動することにより橋脚に作用する水平力があるのに、その有無についてコンピュータに入力する際に、誤って水平力はないとして入力していた。このため、地震時に橋脚に作用する水平力が著しく小さく算出されている。

[水平力を有としてコンピュータ入力した場合の構造計算の結果] 橋脚3基について、改めて応力計算および安定計算を行うと次のように、地震時において、応力計算および安定計算上安全な範囲を超えていている。

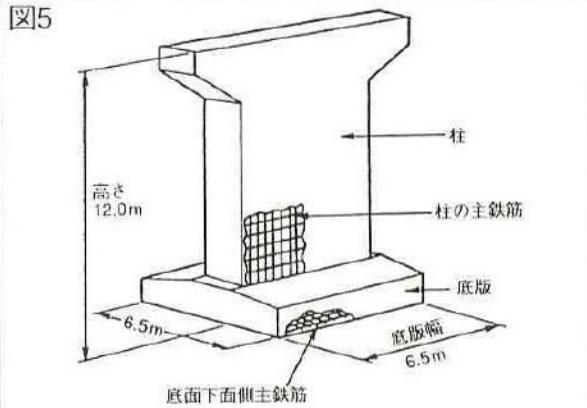
- ①橋脚の柱下端の主鉄筋に生じる引張応力度は、 P_1 で 6100kgf/cm^2 、 P_2 で 5800kgf/cm^2 、 P_3 で 9900kgf/cm^2 と、許容引張応力度 2700kgf/cm^2 を大幅に上回っている。
- ②橋脚の底版の主鉄筋に生じる引張応力度は最大 4700kgf/cm^2 （ P_2 の底版上面側）、最小でも 3600kgf/cm^2 （ P_3 の底版上面側）と、許容引張応力度 2700kgf/cm^2 を上回っている。
- ③柱下端のコンクリートに生じる曲げ圧縮応力度は P_1 で 140kgf/cm^2 、 P_2 で 140kgf/cm^2 、 P_3 で 180kgf/cm^2 と、許容曲げ圧縮応力度 105kgf/cm^2 を上回っている。
- ④橋脚の基礎地盤の支持力に対する安定については、橋脚の底版を介して地盤に力を加えたときに発生する地盤反応力が P_1, P_3 で 160tf/m^2 、 P_2 で 180tf/m^2 と地盤の許容支持力 105tf/m^2 を大幅に上回っている。また、橋脚の自重等の地盤に対して鉛直方向に働く鉛直力も、 P_1, P_3 で 3100tf 、 P_2 で 3300tf と、地盤の許容鉛直力 $1800\sim1900\text{tf}$ を大幅に上回っている。

このように、橋脚3基はいずれも、地震時においては不安定な状態となっている。

4. 橋脚の鉄筋に作用する引張応力度を誤って過大な許容値に基づいているもの（図5）

[概要] 町は、橋長 80m 、幅員 8.7m の橋梁を新設するため、平成6年度に橋脚1基などを工事費4300万円で実施している。

[橋梁の設計] 橋脚は、高さ 12m 、底版幅 6.5m の鉄筋コンクリート構造とし、配置する鉄筋については、地震時に主鉄筋に生じる引張応力度が許容引張応力度を下回り、応力計算上安全な次の計算をしている。



- ① 使用鉄筋は異形棒鋼のSD295Aとする。
- ② 橋脚の柱に配置する主鉄筋については、 $\phi 19\text{mm}$ の鉄筋を25cm間隔に配置し、その中間の位置に $\phi 25\text{mm}$ の鉄筋を25cm間隔に配置する。
- ③ 橋脚の底版の下面側に配置する主鉄筋については、 $\phi 22\text{mm}$ の鉄筋を12.5cm間隔に配置する。

[許容応力度についてのコンピュータ入力に対する検査] 応力計算に使用するコンピュータプログラムは、基本値（鉄筋の許容引張応力度）を入力すると地震時の許容引張応力度が自動的に基本値の1.5倍と算出されるようになっている。この橋脚に使用することとしている鉄筋SD295Aの許容引張応力度の基本値 1800kgf/cm^2 をコンピュータに入力すれば、地震時の許容引張応力度は自動的に 2700kgf/cm^2 で算出される。しかし、コンピュータに入力する際に、誤って 2700kgf/cm^2 を入力したため、地震時の許容引張応力度が 4000kgf/cm^2 となり、この数値の範囲で地震時に対する主鉄筋に生じる引張応力度を算出している。

[再検討の結果] 地震時において、主鉄筋に生じる引張応力度を計算すると、橋脚の柱で 3800kgf/cm^2 、底版下面で 3600kgf/cm^2 となり、実際の施工で使用している鉄筋SD345の地震時の許容引張応力度 3000kgf/cm^2 をいずれも上回っていて、不安定な状態となっている。

〈検証〉 3. の事例は、コンピュータへの入力を誤ったために、構造物に作用する地震時の水平力を考慮しておらず、橋脚に配置している主鉄筋量が過少となっていたり、橋脚の底版が小さく地盤が橋脚を支えきれなくなっていたりしており、3基の橋脚が不安定な状態となっているものである。

4. の事例は、コンピュータへの入力を誤ったために、鉄筋に作用する引張応力度の許容値を過大に算出し、設計指針に反した方法で鉄筋量を設計したため、橋脚に配置する主鉄筋が過少となり、橋脚が不安定な状態となっているものである。これらは、専門コンサルタントの設計技術者が「道路橋示方書」等の設計指針の内容を十分に理解しないまま、コンピュータへの入力をを行い、結果として、設計指針に反した計算方法で設計したものである。

設計業務に関しては、近年、設計基準等の整備による設計の画一化、標準設計図集などによる業務の簡素化が図られてきている一方、発注者では専門のコンサルタント会社への設計業務の外注化が進んでいる。しかし、コンサルタントの成果品のなかには誤りのあるものも存在し、これを審査する発注者側の技術者も事務量の増大などから、十分な点検ができない状態である。この為、設計の成果品をそのまま施工し、不適切な事態を誘発することとなってしまう。

このように最近の設計に関する事例は、コンサルタント側の過失と発注者側の審査不十分に起因するものが大半である。

5. 支承を可動側と固定側とを逆にして設計図面を作成しているもの (図6)

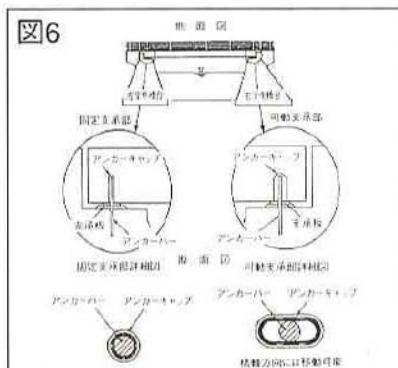
[概要] 町は、平成5、6両年度に橋長9.9m、幅員10.2mのプレストレストコンクリート道路橋を新設するためにPC桁の製作、架設を工事費6900万円で実施している。

【固定支承部と可動支承部の位置】

橋台とPC桁との接点である支承部については、左岸側を固定支承部、右岸側を可動支承部として設計図面を作成し、施工している。

【設計計算書における支承部の位置と設計図面との照合】

設計計算書においては、左岸側を可動支承部、右岸側を固定支承部として橋台の安定計算を行った結果、支持力、滑動、転倒については、いずれも許容値



を満たしていることから安全であるとしている。しかし、設計図面を作成する際に、誤って上記とは逆に左岸側に固定支承部を、右岸側に可動支承部を据え付けることとし、これにより施工している。

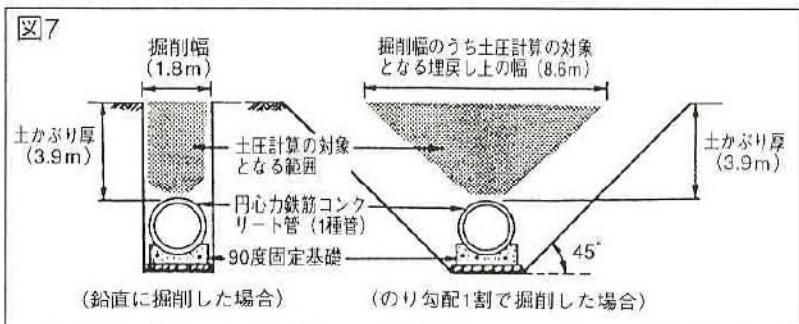
[支承部を逆にした場合の構造計算] 固定支承部とした左岸側橋台は、地震時において作用する水平力が設計計算書の数値より増加することにより、橋台底面の地盤の許容鉛直支持力が385tfを下回り、また、滑動に対する安全率も許容値を下回るなど、左岸側橋台、PC桁は不安定な状態となっている。

〈検証〉 支承の配置誤りは、レベルの高い橋台側を固定、低い側を可動としてあったにもかかわらず、設計計算書を確認せずに、一般的な支承の据付け方法であるレベルの低い橋台の方を固定、高い方を可動というように設計図面を作成したものである。このほかにも、可動支承の設置角度を誤ったため、可動せず、両橋台とも固定となった事例が見受けられる。

6. 雨水管に作用する土圧を誤っているもの(図7)

[概要] 町は、平成5年度に内径700～1500mm、延長320mの雨水管の布設を工事費1億5200万円で実施している。

[雨水管の設計の基となる土圧の計算] 内径1350mmの雨水管の延長43mについては、鉛直に幅1.8mで掘削して埋設することとし、土圧計算



の対象となる埋戻し土の幅もこれと同じ1.8m、土かぶり厚3.9mとして設計計算している。そして、この設計条件で遠心力鉄筋コンクリート管1種(1種管)を使用し、その管底部をコンクリートで固定する90度固定基礎とすれば、雨水管に作用する最大曲げモーメントは、0.967tf/mとなり、許容曲げモーメントの1.3tf/mを下回ることから応力上安全であるとしている。

[設計計算書と設計図面で埋戻し幅が異なっている] 設計計算書では、鉛直で掘削することを前提に土圧計算をしているが、設計図面によると、のり勾配を1割で掘削することとなっており、この勾配で施工している。

[実際の施工幅による土圧に基づく構造計算] のり勾配を1割で掘削した場合、土圧計算の対象となる埋戻し土の幅は8.6mと設計計算書での1.8mに比べて大幅に広くなり、これに基づく土圧によると、管に作用する最大曲げモーメントは2.0tf/mとなり、許容曲げモーメント1.3tf/mを大幅に上回っていて、雨水管延長43mは不安定な状態となっている。

〈検証〉 この事例は、雨水管の設計において鉛直土圧の計算と施工の実態が異なったため適切を欠いたものであるが、この種の事例としては、雨水管などのパイプカルバートの設計を行うにあたっては、

①PC管、RC管などの管種

②管底部の基礎構造により、管外周の1/4をコンクリートで固定する90度固定基礎、1/2で固定する180度固定基礎、全体を固定する360度固定基礎

③管径の大きさ、土かぶりの高さなどの設計条件により、建設省が制定した「土木構造物標準設計」の「パイプカルバート基礎形式選定図」により、基礎形式、管種を選定することとなっている。そして選定図を

使用して管径をPC管、基礎形式180度固定としているのに、実際の施工では、管種を誤ってRC管としたため、管に作用する土圧などに耐えられないものとなっているなどが見受けられる。このほか、ボックスカルバートの設計に当たり、鉛直土圧係数を誤って土圧を算定しているもの、航空機荷重が作用する箇所を自動車荷重により力を算定しているものなどの事例がある。

最後になりましたが、会計検査院を紹介した本レポートが校友、在校生に少しでも参考になれば幸いと思って筆をとったものです。今後も公共事業の執行にあたり会計検査院と接触する機会等があるときには校友として遠慮なくお立ち寄り下さい。
(土木17回卒)

校 友 短 信

(校友会事務局へのお便りや連絡などから、無断で掲載
しました。限られた紙面のため、全文をご紹介できな
いものもありましたが、ご了承下さい。)

土木工学科

◇**秦 裕**(6回卒、(財)郡山市公園協会、郡山市)

3月31日付けをもちまして郡山市下水道部長を最後に郡山市役所を定年退職いたしました。
なお、4月1日から財団法人郡山市公園協会事務局長としてお世話になり、カルチャーパーク内の事務所で働いております。

(H.8.4.12受)

◇**林 和也**(18回卒、(株)青木建設、神奈川県厚木市)

13年間、(株)青木建設横浜支店土木部に勤務しておりましたが、5/1付をもって名古屋支店津営業所の所長として地元に帰ってまいりました。校友会の皆様、今後共よろしくお願ひ申し上げます。

(H.8.5.17受)

◇**鹿島耕一**(20回卒、日本上下水道設計(株)、大宮市)

校友会報、いつもお送り頂き大変有り難く思っております。連絡が遅れましたが、昨年の10月の移動により勤務先が横浜から大宮に変わりましたので、連絡致します。卒業以来20数年、異動により仙台、東京、札幌、横浜そして大宮とまわりましたが、先々で同窓の友と友好を深めました。先日20年ぶりに郡山を通過し、新幹線の車窓から母校を眺め学生時代を懐かしく思い出しました。

(H.8.4.5受)

◇**岡田静訓**(24回卒、(株)四電技術コンサルタント、香川県三野町)

徳島県阿南市の橘湾火力発電所(四国電力、電源開発共同事業)の設計で忙しい毎日です。
高松で元気に頑張っています。

(H.8.9.30受)

◇**村山政文**(24回卒、(株)村山土建、新潟県十日町市)

『母校を訪ねる会』せっかくの企画で、ありがたいのですが所用の為、欠席です。私、社長になりました。後輩を、ぜひ採りたいと思うこの頃です。

(H.8.9.5受)

◇**藤本祐一**(24回卒、昭和建設、青梅市)

『母校を訪ねる会』を、楽しみにしていたのですが、10月から韓国に出張することになり、参加できなく残念です。私、工学部を卒業して本当によかったと思っています。

(H.8.9.14受)

◇**続石(川姓・坂本)祐子**(37回卒、パシフィックコンサルタンツ(株)、国立市)

桜の季節ですね。街には真新しいスーツを着た新社会人が目に入ります。工学部も女性の数が増えているようですが、世間は女性の採用をひかえる傾向があるのは、他社に比べて女性の採用が多かった弊社にもみられるので、工学系でもきびしくなっていると思います。頑張って下さい。男の世界ではありますが、何でもかんでも男と一緒にではなく、女の良さを生かしていって下さい。

(H.8.4.12受)

建築学科

◇**出村道昭**(10回卒、(株)福島工務店、小樽市)

32年間勤務した(株)地崎工業から住宅専門の小樽市のA級業者・福島工務店に転勤いたしました。今後、住宅の設計施工で頑張ります。

(H.8.4.11受)

◇**瀬戸口正樹**(24回卒、大和ハウス工業(株)、川崎市)

『母校を訪ねる会』残念ですが、都市住宅学会の為、欠席いたします。

(H.8.10.2受)

◇**花田善広**(24回卒、(有)アース構造設計鉄路、鉄路市)

10月20日の『母校を訪ねる会』は、20年振りの郡山です。20年があつという間に過ぎてしまいました。浦島太郎の気分です。

(H.8.9.28受)

◇**成瀬研治**(24回卒、(株)ナルセ企画、旭川市)

今春、旭川に戻り、家業の工務店を発展させる形で(株)ナルセ企画を設立しました。遅咲きながら、学生時代に学んだ事を活かす事ができそうです。

(H.8.10.3受)

◇**松澤 静男**(24回卒、マザワ設計、浦和市)

住宅の設計をして、いそがしく走り回っています。今後、情報交換等する機会がありましたら宜しく。 -XIFTY QYZ 02502-

(H.8.9.7受)

◇**熊谷憲幸**(32回卒、自営 可否俱楽部・可人、名古屋市)

9年前より自営になりました。おかげさまで順調です。学業はあまり生きてませんが、東海にいる校友も利用してくれます。今後もよろしくお願ひ致します。

(H.8.10.7受)

機械工学科

◇**油屋和夫**(4回卒、大阪市)

皆様、久しく御無沙汰致しました。またとない機会で、出席して友情を温めたいと思いますが、糖尿病の為、残念乍ら欠席します。

(H.8.10.3受)

◇**松林秀夫**(23回卒、八戸市)

昨年母校を訪ねる会で、寮友、下宿、卒研仲間、恩師、知人、旧友等と、20年ぶりの再会を果たすことが出来ました。また学部内の発展ぶりをカメラにおさめ、大いに満足して帰ってきました。新ためて母校の素晴らしいと、先輩等の築いて来られた歴史と伝統に感謝する次第です。おかげ様で人生半期の中盤に貴重な思い出を作ることができました。

(H.8.4.12受)

◇**功刀賢一**(24回卒、駿台自動車整備工業専門学校、甲府市)

卒業し早20年、卒業後1回も郡山に行ってないので会報がとても楽しみです。何回も読んでます。同期卒業の黒沢君、米川君、穂積君、鯨井君!!どうしてのかな?

(H.8.10.15受)

◇**吉井正行**(25回卒、北海道警察旭川方面本部、旭川市)

現住所が変更となりましたのでお知らせ致します。道警察では大学理工系出身者採用に力を入れております。希望の学生の方がいらっしゃいましたら、お力になりますのでお知らせ下さい。

(H.8.3.29受)

◇**佐藤 潔**(30回卒、(財)鉄道総合技術研究所)

元気に頑張っています。鉄道に興味のある方は、所内の見学が出来ます。また、毎年十数名新卒を採用しますので、鉄道の研究・開発(分野はたくさんある)を行ってみたい学生はいませんか。

(H.8.9.6受)

電気工学科

◇**鈴木 栄**(4回卒、練馬区)

「青春の熱き血潮躍る昔に会える、何と懐かしき」。『母校を訪ねる会』の、ご連絡有り難うございました。今回、如何とも仕方無い用件にて出席出来ませんのが慚愧にたえません。近々、田舎に行く予定が有りますので母校を拝見させていただきます。

(H.8.9.30受)

◇**中野 平**(4回卒、(株)東急ミエティ、東京都福生市)

御無沙汰しています。卒業後、今2度目の勤めです。皆に会いたいですが、残念ながら欠席いたします。次があったら?皆さんによろしく。

(H.8.9.11受)

◇**駒田哲也**(24回卒、(株)ゼット電器、下関市)

学生時代の友人、加藤隆哉君(建築24回卒)を捜しています。北海道出身です。

(H.8.9.17受)

◇**高野英秋**(24回卒、スマ電機(株)、福島県相馬市)

現在、単身で中国・廣東省東莞市に出向中です。

(H.8.10.7受)

工業化学科

◇**庄司功一**(24回卒、宮城県立石巻工業高校、宮城県石巻市)

『母校を訪ねる会』、学校行事と重なり欠席します。大変、残念に思います。

(H.8.9.6受)

◇**芝田治彦**(24回卒、アトミクス(株)、広島市)

勤務先の社名が変更です。アトム化学塗料(株)が、新社名アトミクス(株)です。

(H.8.9.5受)

◇**伏見好憲**(24回卒、千葉県警察本部、習志野市)

勤務の関係で予定が分かりませんので、『母校を訪ねる会』を欠席致します。誠に残念であります。

(H.8.9.5受)

◇**熊谷好人**(24回卒、日管興業(株)、浜松市)

『母校を訪ねる会』、欠席いたします。退職後に、母校訪問を考えています。

(H.8.9.6受)

工学部校友会役員の紹介

至 平成8年度
自 平成10年度

平成8年度・通常総会で選任された、会長、副会長および常任理事（旧理事）の役員17名をご紹介します。ご支援のほど、宜しくお願いします。

会長



木村圭二 (建3回卒)
工学部管財課

副会長
（幹事長）



佐藤光正 (機9回卒)
特別委員会委員長
工学部機械工学科

副会長



加藤木研 (電12回卒)
郡山市役所

常任幹事
（事務部長）



村田吉晴 (土12回卒)
総務委員会委員長
工学部土木工学科

常任幹事
（経理部長）



伊藤義人 (電16回卒)
財務委員会委員長
郡山市水道局

常任幹事



橋本 寛 (建10回卒)
会員管理委員会委員長
工学部建築学科

常任幹事



渡澤正典 (建14回卒)
会報発行委員会委員長
工学部建築学科

常任幹事



八木宏純 (工化14回卒)
総務委員会副委員長
アカツコ.LTD.&エバイン・ステーション

常任幹事
（本部評議員）



手塚公敏 (土16回卒)
会員管理委員会副委員長
東電不動産管理(株)

常任幹事



中野伍朗 (工化16回卒)
財務委員会副委員長
桜謹謨(株)

常任幹事



野尻大五郎 (工化16回卒)
特別委員会副委員長
郡山市水道局

常任幹事



盛武建二 (土17回卒)
特別委員会委員
会計検査院

常任幹事



藤田延幸 (建19回卒)
会員管理委員会委員
藤田建築設計事務所

常任幹事



森谷信次 (機19回卒)
財務委員会委員
工学部機械工学科

常任幹事



曾部忠義 (電20回卒)
会報発行委員会副委員長
郡山市水道局

常任幹事



縫 裕訓 (機23回卒)
会報発行委員会委員
県立郡山北工業高等学校

常任幹事



杉崎一馬 (土26回卒)
総務委員会委員
(株)郡山地質調査事務所

○幹事（旧評議員）の委嘱

第1回常任委員会（旧理事会）で推薦され、会長より委嘱された幹事の方々をご紹介します。

鈴木宣孝 (土12)	池上秀幸 (電21)	西家千尋 (建28)
馬場彦吉 (建15)	水上 崇 (建22)	安司靖 (土30)
田口八郎 (土17)	五島邦夫 (機23)	永野正一 (土30)
鈴木恒雄 (建17)	阿部正己 (電23)	千代貞雄 (化30)
川島 忠 (電18)	石井貞志 (機24)	阿部充宏 (土31)
田中敏夫 (建19)	遠藤 康 (建25)	菅野清一 (土31)
野田吉弘 (化19)	橋本芳正 (化26)	渡辺弘道 (土31)
岩崎正志 (電20)	及川広安 (土28)	浜津 徹 (土33)
渡辺信一 (土21)	遠藤正泰 (土28)	佐藤公俊 (化35)
横田 理 (機21)	蔵山寿一 (建28)	佐久間啓 (機40)

以上 30 名

CAMPUS

mini MEMO

□工学部開設50周年記念事業

工学部の開設50周年記念事業として次の三事業が計画された。

1. シンボルマークの募集

- ① 応募資格 工学部学生・大学院生及び教職員
- ② 入選 最優秀賞(1点)、優秀賞(2点)、入選(数点)
- ③ 表彰 H.9.10. の記念式典

2. 学生懸賞論文の募集

- ① 応募資格 工学部学生・大学院生
- ② テーマ 「地球環境と工学の将来」、「私にとって大学とは何か」、「自由テーマ」のうちから、1テーマ1作品
- ③ 入選 最優秀賞(1点)、優秀賞(2点)、入選(数点)
- ④ 表彰 H.9.10. の記念式典

3. 50周年記念館(仮称)の建設

- ① 施設規模 約7,000m² 4階建程度
- ② 建設日程 H.9年度に着工、H.11年春までに建設完了
- ③ 施設の内容 学生の福利厚生を目的として、在学生の父母や校友も有効利用できる施設内容とする。
具体的には

- (1) 学生ホール、喫茶店、軽食堂など
- (2) 合計で1000席程度を有する、タイプの異なる複数のレストラン
- (3) 校友会、父母会の関連施設など

□学事

前工学部長 国分欽智先生は平成8年6月20日付で、名誉教授の称号を授与された。

□人事

◇校友関係者の退職

- 助教授(土木) 小林秀一 (H.8.3.31付)
- 教授(電気) 国分欽智 (H.8.5.19付)
- 事務長 佐藤満夫 (H.8.4.26付)

◇校友関係者の昇格

- 教授(土木) 高橋迪夫 (H.8.4.1付)
△(工化) 野田吉弘 (H.8.4.1付)
- △(一般) 永嶋誠一 (H.8.4.1付)
- △(一般) 星一以 (H.8.4.1付)
- 助教授(機械) 岡憲治 (H.8.4.1付)
△(機械) 橋本純 (H.8.4.1付)

□催事

1. 父母懇談会の開催

恒例の父母懇談会は、平成8年度、次の会場で開催された。

郡山会場：H.8.9.7.に開催

地方会場：H.8.9.10.～12.に開催

尚、地方会場は、札幌・仙台会場、東京会場、新潟・松木会場、静岡・名古屋会場の4会場。

2. 教養講座の開催

工学部主催の本講座は、昭和48年から開催されている。平成8年度は「21世紀を生きる」の総合テーマで、以下の講座が開かれました。

5/15	講師	日大理工学部教授 戸川隼人
	テーマ	インターネットの次に来るもの
6/5	講師	ソニー(株)技術顧問 中島平太郎
	テーマ	オーディオにかける夢
6/12	講師	作家 大江健三郎
	テーマ	ゆるやかな絆
10/9	講師	写真家 篠山紀信
	テーマ	写真の未来

3. 学術研究報告会開催される

平成8年度・第39回工学部学術研究報告会が、平成8年12月14日(土)に開催された。各部会の発表件数は、以下の通り。

一般教育部会 18件、 土木部会 49件
建築部会 55件、 機械部会 35件
電気部会 30件、 工業化学部会 29件
情報部会 9件

□施設工事関係

1. 冷房・換気設備の新設工事

待望の冷房・換気設備が次の2教室に設置された。

- 1号館の新設工事 H.8.3.27.完成
- 3号館の新設工事 H.8.9.22.完成

2. テニスコートの新設工事

50周年記念館(仮称)を、旧テニスコートに建設することになったため、グランド用地内にテニスコートが新設された。

- サンドテックスローンコート造り
- 敷地面積 4,089.15m²
- ネットフェンス 286.60m
- 公式コート(透水性人工芝ユート) 6面
- 排水コート(コート下部に配水管設置排水)

3. 講堂（体育館）外壁等の改修工事

- 1)外壁改修 2,680m²
- 2)外窓改修 3)屋根改修
- 以上、H.8.9.23.に工事完了。

□平成8年度・工学部学年暦

4/8	日本大学入学式
4/15	授業開始
7/16～7/27	前学期試験
7/28～9/23	夏期休業
9/7～12	父母懇談会
10/4	工学部創立記念日
10/18～20	学部祭（北桜祭）

12/14 工学部学術研究報告会

12/21～1/15 冬期休業

1/18～19 センター入学試験

1/23～2/5 後学期試験

2/15 工学部入学試験

2/17～3/10 ヨーロッパ研修旅行

3/25 日本大学卒業式

□工学部のホームページが公開される

平成8年4月より工学部のインターネット・ホームページが公開された。ホームページアドレスは次の通りです。

<工学部> <http://www.ce.nihon-u.ac.jp>

日本大学工学部校友会員各位

平成9年3月1日

日本大学工学部校友会長 木村圭二

平成9年度通常総会通知

本会会則第15条により、日本大学工学部校友会平成9年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様にはご多忙中とは存じますが、先輩後輩お誘い合わせの上、多数ご出席下さい。

記

1. 日 時 平成9年4月5日(土), 午後2時より総会、同3時より懇親会
2. 場 所 日本大学会館
所在地 東京都千代田区九段南4-8-24
電 話 03-3262-2271
3. 議 題 (1)平成8年度会務および決算報告
(2)平成9年度事業計画および予算審議
(3)その他
4. 懇親会 総会終了後、引き続き同所にて大学関係者を迎えて懇親会を開催します。

以 上

第17回 母校を訪ねる会

月日 平成9年10月26日(日) (予定)

対象 第5回卒業生(昭和32年3月卒業)
第25回卒業生(昭和52年3月卒業)

本会も、回を重ねる毎に盛況となり、この頃は、前日に同級会を開催するクラスが多く見られます。今回は、上記・年度の卒業生を中心とした対象としてはおりますが、この年度以外の方々のご参加もお待ちしております。是非ご来校下さい。旧友との再会や後輩の奏する校歌に、また新たな感動があるものと思います。

校友会報 第60号

発行所 日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原1

郵便番号 963-11

電話番号 (0249)-44-1327

FAX番号 (0249)-44-1327

振替講座番号 郡山5-1990

発行部数 41,000部

発行日 平成9年3月1日

発行代表者 会長 木村 圭二

編集代表者 会報発行委員長 渡澤 正典